

インパクトコンソーシアム 地域・実践分科会（第1回） 議論のポイント

【日時】令和7年10月16日（木）15:00～17:00

【場所】オンライン開催

【次第】

1. はじめに
 - ・ 座長、副座長挨拶
 - ・ ディスカッションメンバーのご紹介
2. 第1期振り返り
3. 第2期地域・実践分科会の方針
 - ・ 第2期全体方針（概要）
 - ・ 年間計画（案）
 - ・ 成果物作成にむけて
 - ・ 多様なファイナンス手法の紹介
4. 第2期地域・実践分科会の方針に関する意見交換
5. 次回以降の開催について

【ディスカッションの概要】

〈地域におけるインパクトファイナンスの現場ニーズ〉

- キックオフの討議として、地域におけるインパクトファイナンスの現場ニーズと、なぜそのニーズが満たされていないのかを出していただき。またそれを踏まえて、事例集がどう使えるか、どうすれば役立つものになるかの意見もお願いしたい。
- 信用金庫は営業地域が限られ、お取引先の多くは中小規模の事業者である中で「インパクトファイナンス」という言葉自体が馴染みにくいところは実は問題。融資や融資前の対話を通じて、課題を共有し解決策を探っている。地域のために環境・ウェルビーイングに取り組む企業の「認知」を高めるために、一金融機関だけの発信では銀行と融資先の関係が考慮されたように見えてしまうので、行政や第三者評価機関も連携した形で発信することは重要である。また、評価コストが高いことも課題であり、地域企業にフィットするスキームの検討が必要である。インパクトファイナンスの枠組みで融資を受けた企業は、それ自体を対外発信できるということも普通の融資との相違点である。なぜこの融資が金融機関に評価されたのかを確りと発信できるフレームを作ることが重要である。
- 当行の手法は、デット型のサステナビリティ・リンク・ローン（SLL）、ポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）、グリーンローン等がある。中小企業においては、

業界を牽引するような KPI 設定が難しい側面等から、SLL の組成は普及が進みにくい印象である。PIF は SDGs 全般の重要活動と紐づけてある程度自由に KPI 設定できるため、徐々に利用が広がっている印象である。当行のファイナンスのアプローチとして特徴的なのは、ファイナンス手法の説明から入らず、まず本部主導の SDGs コンサルで事業と SDGs の紐づけを行い、その促進策としてインパクトファイナンスを紹介する流れとしていることである。事例集作成において課題となることは、一つは貸し手側において、現場（フロント）が事例集を活用してお客様と対話できること。もう一つは借り手側の視点において、地域貢献や課題解決に取り組んではいても上手く言語化できない経営者が、事例集を通じて言語化を支援できるとよい。

- 創業期・シードのスタートアップは本来的に相性が良いが、経営者側に SLL のようなファイナンス手法の認知がないケースが多いことは課題。貸し手側にカウンターパートになれる方々がいるとうまく機能するのではないかと思う。また、インパクトスタートアップの多くはインパクトレポートを定期的に発行するが、適度な頻度で緩急をつけて実施するのが望ましく、SLL のようにインパクト KPI と連動した融資のリリースが増えるとうい。老舗企業では KPI の言語化に否定的な傾向があり、そこを前向きに伝える人材の増加と重要性の浸透が必要である。
- 「断った方が楽」という考え方をどう超えるかということと、組織の論理として支援可能なフェーズ・内容を明確にしておくことの二点は重要である。地域でファーストラウンドを支援する際、案件を断らず次のステージに仕上げる「意義」を金融機関が考え、その上で、「断わった方が楽」な案件もファイナンス可能になるよう手法を検討するという順番がある。インパクト投資は事業としては成立するが収益性・スケーラビリティで伸びない領域に投資を行う必要があるというのが出発点だったと思っている。地域という議題ではこれから始める事業のリスクを取らなければならない場面が多く、そのリスクを自分たち（資金の出し手）のポートフォリオをして取りうるのか、事業リスク・スケーラビリティのリスクを取るのかを整理し、ポートフォリオ上の位置づけを明確にした上で手法に進むという前段階の整理があってもいいのではないか。事例集には「従来手法でのボトルネック」と「どういうやり方で乗り越えたか」が明示されるとよい。
- インパクト志向金融宣言の地域分科会の今年度目標では、地域課題解決の二大プレイヤーを自治体と地域金融機関と位置づけ、ロジックモデルで解決パスを設計し、ステークホルダー合意形成を重視した。南都銀行とキャピタルメディカベンチャーズの「やまとインパクトファンド」の事例は参考になる。ファイナンスに限らず、地域金融機関のネットワーク・仲介力でインパクトを作る視点も重要と考える。一方、地域

金融機関の主たる手段は融資であり、PIF をどう活用するのかがポイントである。PIF は 3 月末で約 1600 件、商工中金等を含め 9 割が地域金融機関による中小企業向けで、既に大きなマーケットとなっている。インパクト志向金融宣言では代表的業種の KPI 例を載せた「地域ポジティブ・インパクト・ファイナンス (PIF) 実践ガイド」を 5 月にリリースし、企業価値向上に資する KPI の拡大と高度化を目指している。事例集についてはデット・エクイティ等の手法がまとまっているものは見たことがないため意義があるのではないかと思う。事例の多い海外を参考にして日本に落とし込む等、あり得るパターンをシミュレーションして掲載することも有効と考える。地域における投資と融資の接合も重要であり、企業の成長段階に合わせ、地方銀行がグループに CVC を持っていればメザンスキームを持っているということになるので、コラボレーションしてファイナンス面で伴走支援することが可能となる。また、ビジネス面での地域金融機関の価値提供として、地域のステークホルダーを結びつける役割では右に出るものはないと考えている。

- 商工会議所は全国 515 カ所、会員には資金の出し手・受け手の双方がいる。地方は社会課題が山積で、新規事業は自ずと課題解決型になりやすいが、自身の事業を「インパクト事業」と認識しているプレイヤーは少ないため、「ローカル・ゼブラ」等の概念と併せて、定義づけと普及を進めたい。事例集を用いて、地方への投資拡大を図っていききたい。特に都市部から地方へ、あるいは地元の有力者が新しく地元で創業した企業とつながるなどの動きができないかと考えており、その鍵は「共感型資金」にあると考えている。([『共感』が地域に人や資金を呼び込む』というレポートを 2024 年に発行)。事例集にはクラウドファンディングや株主コミュニティ等、個人や小口の共感資金が入る手段も取り上げてほしい。
- 「課題感」が何に対するものかを整理すべきと考える。まず「どんなリスクを取って資金を出すか」というファイナンス一般の課題があり、その先に「インパクトをどう活用するか」という課題がある。プレイヤー別（出し手・受け手）、受け手の中でも小規模・若い企業と、歴史ある既存企業で課題は大きく異なる。前者は、創業資金は補助金・創業融資で何とかなるが、地域には VC 等のエコシステムが少なく、地銀からの融資に至るまでのギャップが大きい。資金の性質（長期リスクキャピタル／短期運転資金）も不足している。後者は、人口減少や環境変化の中で新規事業に必要なリスクマネーが不足する等、別の課題があると聞くことはある。

〈企業の成長度合いに応じたファイナンスギャップ〉

- 経験上、創業～プレ段階の企業は、日本政策金融公庫や地銀の融資で 20 百万円とか 10 百万円の規模感を調達できて事業を進められているケースが多い印象。一方で、シ

ード期を超えたシリーズ A のタイミングになると、既存借入の元本返済が始まらず追加融資が難しく、エクイティも詰まるというケースが多く出てくる。事例集においてはマッピング上 [本編資料 P13、14] のこのアーリー～ミドルのゾーンに案件が入っていると、ニーズがあるのではないか。

- 事例集で、ベンチャー的インパクトファイナンスと、地域金融機関が取り組む中小企業向けの融資・対話の対象層や状況等を示してもらえると読み手が自分ごと化しやすいと感じる。また、「なぜこの地域でこの会社リスクを取って応援するのか」という金融機関としての Why は重要である。ファイナンスギャップについては、金融機関ごとの得意分野（不動産、製造、創業支援等）で対応が分かれるため、自機関の強みとリスクテイクの方針を現場と本部で共有できていることは重要であり、そのギャップから不成立になることがある。現場と本部が共通認識を持ち、それをお客様に伝えながら「当金庫ではサポートできないが隣の金融機関ではできる」ということもありうることであり、そういった連携を別の軸で整理をしていくこともできると思う。
- 特にディープレックでは IPO 後に資金の谷が生じやすいと考えられる。ミドル～レイター期からデットプレイヤーがウォッチし、プラント構築時のプロジェクトファイナンス等で本来機能を発揮できるのではないか。VC と銀行をフェーズで分断せず、投融資の接合を滑らかにする金融構想図が必要である。
- 資料のマッピング [本編資料 P13、14] を見ると教育、食糧、人材、その他みたいな下半分でミドルレイター以降が少ないようにみえてくるが、この傾向に示唆はあるか。
 - 分野別・ステージ別の事例分布は、統一条件での網羅的抽出ではないため傾向は参考情報としてみていただきたいが、環境・脱炭素・気候変動系は件数が比較的多い傾向はあると考えられる。一方、働き方・食料などはミドル～レイターにおいてデット系が少ない感触はあるが、示唆を出すにはデータが不足している。今後、分野・業種の観点も踏まえて整理していきたい。（事務局）
- 資金需要者側のニーズと未充足のボトルネック（ファイナンスギャップ）を、ペルソナ別・フェーズ別・資金性質別に解像度高く整理することで、事例集の収集・構成を最適化していきたい。アセットクラス間のシームレスな接続（デット・エクイティ・メザニン等）や自治体連携をキーワードとして、事例集のアップデートを検討する。